

JAEF REPORT

令和7年4月5日

年4回発行(1,4,7,10月)

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

【目次】

- ◆ 第33回理事会を開催、令和7年度事業計画・予算を承認
- ◆ 令和7年度自動車教育用教材の公募予定、工具の正しい使い方を学ぶ教材を追加

- ◆ 令和6年度講師派遣実績
- ◆ 動画学習サイト「早わかり!クルマ塾」に10本のコンテンツ掲載

第33回理事会を開催、令和7年度事業計画・予算を承認

…3月18日

財団運営

財団は、3月18日に芝パークホテルにて第33回理事会を開催しました。同理事会では令和6年度の事業進捗状況が報告されると共に、令和7年度の事業計画・収支予算案等が承認されました。

新型コロナウイルス感染が収束した令和5年度以降、「自動車技術教育の抜本的強化」を掲げて、自動車産業に携わる将来の担い手の育成支援、そして、若者が一層クルマに関心を持ってもらう取り組みを推進してきました。

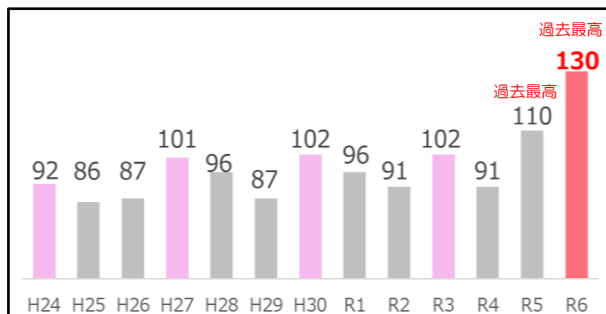
収入の制約がある中で、業務の効率化、他事業の縮小により自動車技術教育に予算を重点配分することにより、下表のように、自動車技術教育用教材の提供校数、技術系講師派遣（出前授業）の実施件数は令和5年度、令和6年度とも過去最高の成果を収めることができました。

令和7年度は、より実効性のある活動に努めていきたいと考えています。一つには、財団の活動を通じて、「自動車に携わる仕事に就きたい」「クルマへの関心が高まった」という高校生がどれだけ増えたか、高校生に直接アンケートを実施して意見を吸い上げる活動を考えています。

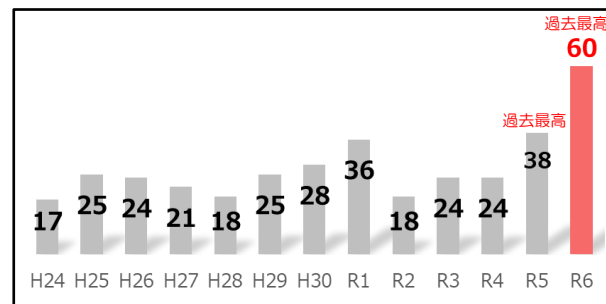
二つ目には、ものづくり人材の確保には、まずは工業高校の生徒をいかに確保するか、その中でも機械系や自動車系の生徒をいかに確保するかが重要でありますので、財団事業を活用して、学園祭や高校生による科学学習などを通じて小中学生への啓もう活動を行っている高校の事例を収集し横展開する、その一助として優秀高校の表彰制度ができなにか検討したいと思います。

三つ目には、技術教育以外の分野でも、もっと効率的、効果的なやり方がないか、実施方法の見直しを図ってきたいと思っています。

【技術教育用教材提供校数】



【技術系講師派遣実施件数】



- 高校生の自動車への関心向上度の定量的把握
(教材提供、講師派遣実施時などでの高校生への直接アンケート)
- ものづくり人材確保のため、工業高校や機械・自動車系学科への進学・進級につながる教材の導入や、教材活用策の横展開
(活用事例表彰制度検討)
- より効果的な活動方法の検討
(JAEF研修会、海外調査など、実施方法の見直し)

このような活動は、財団単独ではなし得ません。一部の団体では、人材確保の観点から財団と連携した活動を推進する旨を令和7年度の事業計画に盛り込んでいただきました。事業計画に盛り込まなくても、財団と連携した活動を予定している団体もございます。

多くの皆様とともに、ものづくり人材の育成にまい進して参りたいと思いますので、引き続き皆様のご支援、ご協力を賜りたく、よろしくお願いいたします。



▲第33回理事会の様子

INFORMATION

4～6月予定

- 理事会、評議員会を開催 5、6月
- 令和7年度JAEF研修会参加者募集開始 5月下旬
- 令和7年度自動車技術教育用教材提供の公募開始 6月上旬
- 令和7年度講師派遣を実施 4月～6月
- "JAPAN MOBILITY SHOW 2025" 高校生来場促進活動開始 4月

令和7年度自動車教育用教材の公募予定、工具の正しい使い方を学ぶ教材を追加

技術教育

財団では、自動車に関する技術教育支援のため、全国工業高等学校長協会、全国総合学科高等学校長協会、全国自動車教育研究会に加盟している高等学校を対象に公募を行い、広く実験実習用教材や自動車技術教材を無償で提供している。

今年度は、6月初めより同月末までの1か月をかけて、自動車教育用教材の公募を実施する（下表日程参照）。対象は、右の日本地図内緑色部 計18県の293校で、当該エリアとしては過去最多となる110校への提供を見込んでいる。

教材メニューについては、教育現場のニーズや理解を深めるべきクルマの基本的な構造・技術の重要性を踏まえ、これまでに適宜見直しを実施してきた。今回は、正しい工具の使い方を学べる新教材として「デジタルトルクチェッカー（仮称）」を設定する。多数の先生からの「工具の使い方を知らない生徒が多く、“ネジ切り”などにより教材を壊してしまう」という声をメニュー設定に反映。当教材は、正しいトルクのかけ方をモニターや音で体感しながら、ネジの適度な締め付け具合を体得できる。さらに、高校での文化祭や中学生向けの学校紹介活動などでの活用も期待している。また当教材の贈呈校に対して、授業での学習効果を高めてもらうべく、「フォロー指導」の実施も検討している。

令和7年度

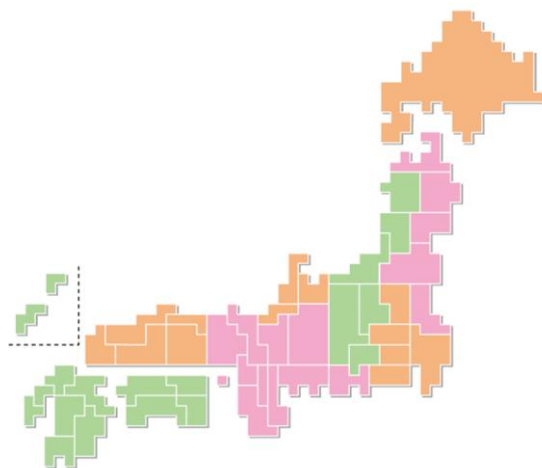
秋田、山形、新潟、群馬、長野、山梨、香川、徳島、愛媛、高知、福岡、大分、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄（18県）

令和6年度

青森、岩手、宮城、福島、茨城、静岡、岐阜、愛知、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、三重、和歌山（15府県）

令和5年度

北海道、栃木、埼玉、東京、千葉、神奈川、富山、石川、福井、鳥取、島根、岡山、広島、山口（14都道府県）



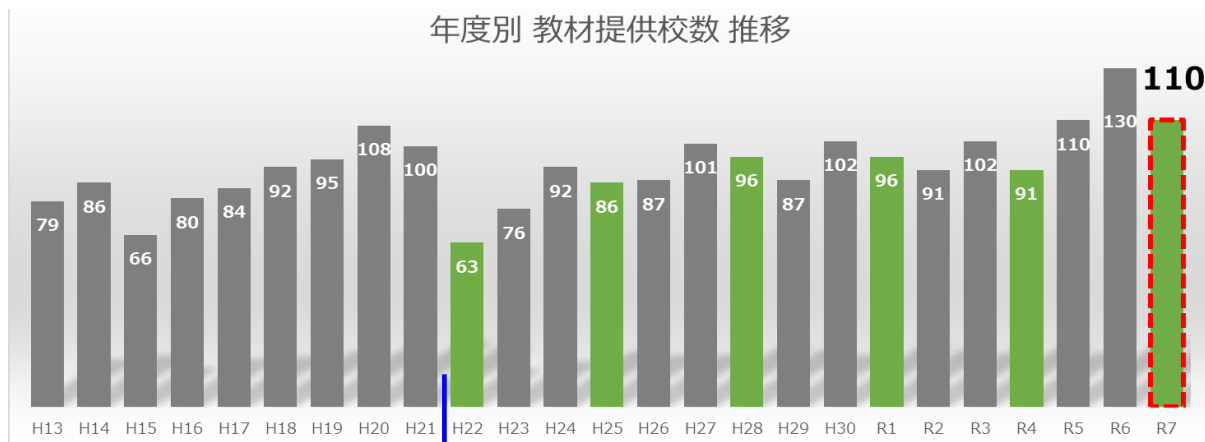
【日程】

6月初め	: 募集要項案内
6月末	: 応募締切
8月上旬	: 教材提供校・提供教材決定
10月～2月	: 教材提供

令和7年度 新設教材「デジタルトルクチェッカー（仮称）」



年度別 教材提供校数 推移



平成22年度以降、提供対象地域を3ブロックに分削

*令和7年度は見込値

令和6年度講師派遣実績

研修

令和6年度の講師派遣実績は363件（前年度差 +24件）で、新型コロナウイルス感染拡大前の令和元年度の実績と並び過去最多となった。参加者も106,231名（同 +9,197名）と大幅に増加した。

全363件の分野別内訳は以下の通り。

分野	件数	対象
1) 自動車技術	60	主に工業系の生徒
2) 交通安全	298	社会科系及び生徒指導担当の先生並びに生徒
3) 環境・交通技術	5	

研修会メニュー別実績件数は以下の通り。

1) 自動車技術：計60件

最新技術：生徒対象	59
整備技術：教員対象	1

前年度（令和5年度）実績から22件増え、過去最多の60件を実施。2年連続で過去最多実績を更新した。実車を使った最新技術・自動車の仕組の説明や整備士の仕事に対するやりがいや重要性を伝える等、通常の授業では得られない「観て聴いて触れて」の体験を通じ、生徒が自動車技術に対し関心を高める研修会となった。

2) 交通安全：計298件

ヘルメット着用の重要性	87
夜間の交通安全対策	21
ドライバー・自転車・歩行者から見た交通安全	166
交通事故のリスクと損害保険の役割	7
自転車事故のリスクと損害保険の役割	15
二輪車（バイク）の交通安全	2

3) 環境・交通技術：5件

環境技術：地球温暖化とモビリティ技術	4
交通技術：交通技術と社会の在り方	1

「交通安全」「環境・交通技術」の高評価率（※）は98%と、令和5年度から1ポイント向上した。これは以下のような講師の方による工夫に対する高い評価を反映したものと考えられる。

- クイズを取り入れるなどして生徒の関心を高めながら、高校で定着しつつある探究に沿う充実した内容
- きめ細かな事前打ち合わせにより学校の状況や環境・地域のデータ等を踏まえたより身近な内容

※ 高評価率：実施報告書で5段階評価中「大変良かった」「良かった」の合計

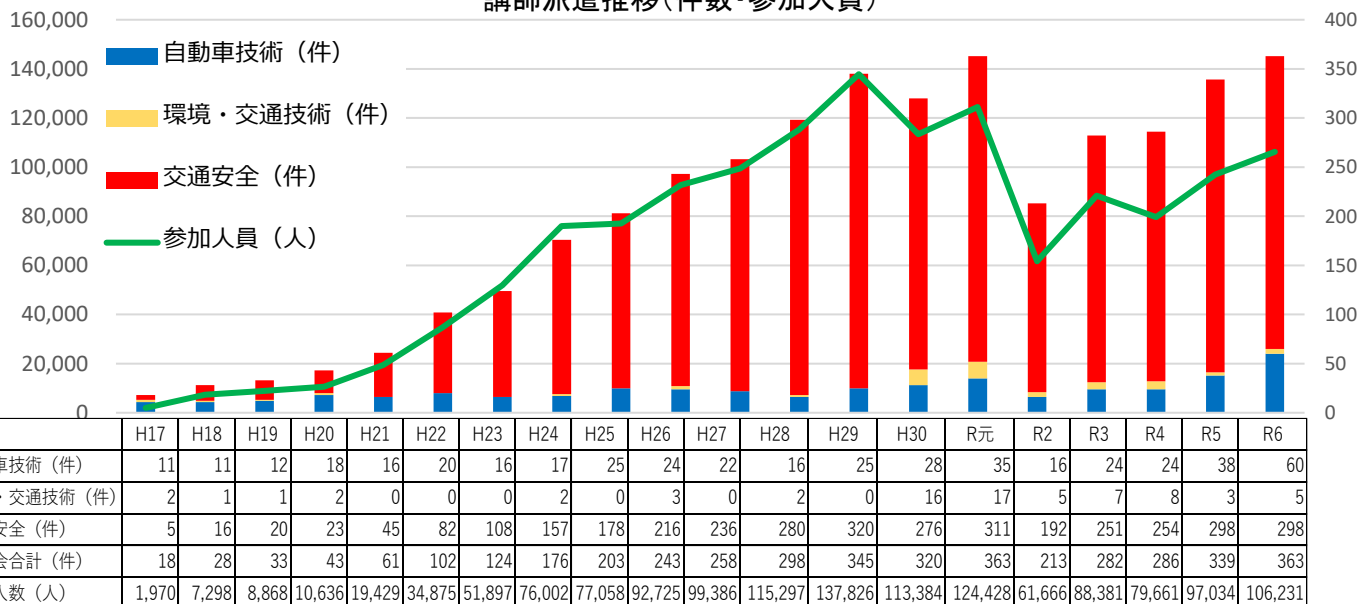
講師については、全363件のうち350件を地元の自動車教育推進協議会メンバーに担当いただいた。

講師派遣にご協力いただいた関係団体・企業の皆様に紙面をお借りして深謝申し上げます。



▲山口県立田布施農工高等学校での講師派遣（自動車技術）の様子

講師派遣推移（件数・参加人員）



※平成17年度以降掲載

動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」に10本のコンテンツ掲載 …… 2、3月

普及啓発

財団は動画学習サイト「早わかり！クルマ塾」にて、合計10本のコンテンツを財団ホームページに掲載した。

今回公開した動画は、交通コメンテーター 西村直人氏が自動車の最新技術などをわかりやすく解説するコーナー『人、クルマ、そして夢。』の2つのテーマ「1）”進化を続ける安全技術・運転支援技術”」「2）”商用車ならではの電動化と自動化技術”」に関するもので、各5本で構成。

令和6年度は、当10本を含め合計13本のコンテンツを掲載した。本年度もコンテンツの追加、及び視聴促進に注力しながら、自動車教育支援の更なる強化、クルマへの関心・理解向上を図っていく。（以下、動画タイトルに続く < > は掲載日）。

1) ”進化を続ける安全技術・運転支援技術” シリーズ

➢ 『昔から安全を大切にしたSUBARU（歴史編）』 <2/7>

SUBARUの安全なクルマ作りの原点ともいえる「スバル360」「スバル1000」に焦点を当て、安全に対する考え方、設計思想を解説



▲ 『昔から安全を大切にしたSUBARU（歴史編）』より

➢ 『SUBARUってどんな会社？安全で大切にしているところは？（聴く編 第1回）』『SUBARUの運転支援技術って？アイサイトは自動運転技術になる？（聴く編 第2回）』 <2/13>

SUBARUで「安全」を築き上げる上で大切にしている点、運転支援技術群「アイサイト」の開発のきっかけ等について紹介



▲ 『SUBARUの運転支援技術って？アイサイトは自動運転技術になる？（聴く編 第2回）』より

➢ 「安全な運転をアシストする『アイサイトX』の代表機能（乗る編 第1回）」「いざというときに介入する事故を抑制する技術（乗る編 第2回）」 <2/19>

「アイサイト/X」の機能・特長などの解説に加え、同社開発者から高校生へのメッセージを発信



▲ 『いざというときに介入する事故を抑制する技術（乗る編 第2回）』より

2) ”進化を続ける安全技術・運転支援技術” シリーズ

➢ 『いすゞ自動車ってどんな会社？商用車の電動化や自動化とは？（聴く編 第1、2回）』 <2/25>

いすゞのモノづくりの考え方、商用車のカーボンニュートラル・電動化技術の特徴などについて解説



▲ 『いすゞ自動車ってどんな会社？商用車の電動化や自動化とは？（聴く編 第2回）』より

➢ 「いすゞの電動化車両に試乗！小型電気トラック『エルフEV』（乗る編 第1回）」 <3/4>

西村氏による試乗や同社開発者へのインタビューを交えながら、小型電気トラックの性能などを解説



▲ 「いすゞの電動化車両に試乗！小型電気トラック『エルフEV』（乗る編 第1回）」より

➢ 「いすゞの電動化車両に試乗！大型燃料電池車『GIGA FUEL CELL』（乗る編 第2回）」 <3/11>

試乗の様様や同社開発者へのインタビューを交え、大型燃料電池車の構造や特徴などを紹介



▲ 「いすゞの電動化車両に試乗！大型燃料電池車『GIGA FUEL CELL』（乗る編 第2回）」より

➢ 「いすゞの電動化車両に試乗！大型路線電気バス『ERGA EV』（乗る編 第3回）」 <3/18>

試乗しながらの大型路線電気バスの特徴などの解説に加え、開発者による高校生へのメッセージを発信



▲ 「いすゞの電動化車両に試乗！大型路線電気バス『ERGA EV』（乗る編 第3回）」より